

|        |      |   |
|--------|------|---|
| 2025年度 | 科目名  | 教材・授業研究特論（2）  |
|        | 英語名  | Advanced Seminar on Instructional Materials and Lesson Study（Ⅱ） |
|        | 科目属性 | 専門科目 A群   |
|        | 担当教員 | 坂田映子  |
|        | 単位数  | 2単位（SC 0単位）   |

【授業の目的・ねらい】

【授業の概要】

本特論（2）では、教材・授業研究に関する教育実践研究とは、どのような研究を指すのか、文献や自身の教育実践を再考する。具体的には、これまでの現場での実践に、「新たな視点」を取り入れた教育実践研究レポートとして執筆、考察するとともに、結果の有効性や有用性、社会的に意義ある結果を得ていることを示すなど、授業研究の視野を広げることを目的とする。

【授業の到達目標】

授業の到達目標は、以下の通り。

授業の到達目標は、以下の通り。

1. 授業研究の手法(特に、これからの質的研究法)を理解することができる。
2. 研究デザイン的设计、実践・評価・考察について、教育実践研究レポートにまとめることができる。
3. 自身の教育実践研究を再考し、分析・考察することができる。

【授業計画】

第1回 授業研究における現場の現状と課題

第2回 授業研究の再考

第3回 授業力向上と実践的指導力

第4回 授業研究を教育実践論文にするために

第5回 教育実践研究レポートの構成の仕方(下記参照)の理解

第6回 授業研究から授業改善へ

第7回 研究デザインレポートの実践に関するデータ収集

第8回 テキスト『これからの質的研究法』第3章「協働的な話し合いを支援する教師の即興的思考の研究—授業談話とインタビュー記録の分析によるリヴォイニング時の教師の思考の検討」を読む

第9回 テキスト『これからの質的研究法』第6章「デザイン研究による学校の持続的な改善—子どもたちの学習過程の発話データや学習成果の記録を活用して」を読む

第10回 テキスト『これからの質的研究法』第9章「授業観察経験の比較文化研究—ベトナム 教師のナラティブ分析から」を読む

第11回 第8回～10回を参考にしながら、自身の教育実践研究レポートを書く

第12回 教育実践研究レポートの推敲

第13回 教育実践研究レポートの評価・修正

第14回 考察

第15回 課題と今後の展望

【評価方法】

「レポート評価」（50%）、「科目修得試験」（50%）による総合評価。

**【教科書】**

- 1.秋田喜代美・藤江康彦(2019)『これからの質的研究法～15の事例にみる学校教育実践研究～』  
東京図書株式会社.ISBN978-4-489-02307 C3011
- 2.菊地 章(編)兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科共同研究プロジェクト(w)研究グループ  
(著).(2021)『博士号につながる「教科教育実践学」論文の書き方－院生・修了生・教員が明かすアクセプト  
の秘訣－』九州大学出版会 ISBN978-4-7985-0297-7

**【参考図書】**

1. 高垣マユミ編著.(2010). 授業デザインの最前線Ⅱ－理論と実践を創造する知のプロセス, 北大路 書房.  
ISBN-13: 978-4762827082
2. 大嶋純・千代西尾祐司 編 (2019)『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』  
北大路書房. ISBN 978-4-7628-3080-8 C3037